事例No.	3121
公表年度	R6
団体の属性	一般市
団体名	滋賀県栗東市

事例区分	行政改革

タグ	・（行政改革）業務の効率化

事例種類	人材マネジメント

事例内容・タイトル

定員モデルの活用事例

出典

令和6年度地方公共団体定員管理研究会（第1回）

定員モデルの活用事例

山形県鶴岡市

以下「第４次鶴岡市定員適正化計画（令和４年３月）」より抜粋

③　定員モデルによる比較

「定員モデル」は、地方公共団体定員管理研究所（事務局：総務省）が平成30年３月に改定した指標であり、地方公共団体の一般行政部門を細分化した部門別の職員数と、その職員数に最も相関関係のある行政需要に関連する統計数値を基に、部門ごとの試算職員数が示され比較することが出来ます。

この試算によると、当市の職員は、一般行政部門の全体では試算職員数を13人上回る状況にあります。また、部門別にみると、税務部門で11人、民生・衛生部門で９人、経済部門で２人が上回っています。これは、広大な市域において、窓口サービスや保健事業等を充実させていることが主な理由となっています。一方、議会・総務部門や土木部門では、試算職員数を９人下回っており、これらは業務の集約や情報システム化・業務委託など、人員体制の効率化・スリム化に資する取組みを進めてきたことが理由になっています。

鶴岡市定員モデル試算職員数と実職員数の比較

部門	定員モデル試算職員数Ⓐ	実職員数Ⓑ	差引Ⓑ−Ⓐ	実職員数指標
議会・総務	231	226	▲5	97.8
税務	57	68	11	119.3
民生	134	135	1	100.7
衛生	83	91	8	109.6
経済	133	135	2	101.5
土木	94	90	▲4	95.7
一般行政部門合計	732	745	13	101.8

（実職員数指標は、試算職員数を１００とした場合の指標）

滋賀県栗東市

以下「第２次栗東市定員管理計画（令和５年度～令和９年度）」より抜粋

⑶　定員モデルとの比較

定員モデルは、地方公共団体の職員数と、その職員数に密接に関連すると考えられる行政需要を表す統計数値との相関関係から方程式化することにより、平均的な職員数を算出する参考指標です。

定員モデル　職員数に最も相関関係のある行政需要を表す統計数値を基に、それぞれの地方公共団体における平均的な職員数を求めるもの

【表１１】においては、前述の類似団体との比較と同様、本市の職員数は定員モデルとの比較で、衛生部門が多く、議会部門、総務・企画部門、経済部門が少なくなっています。

【表１１】定員モデルとの比較　（令和４年４月１日現在、人・％）

区分	部門	栗東市	定員モデルとの比較 部門	試算値	超過数	超過率	（参考）行政需要を表す統計数値(Xn)
一般行政	議会	5	議会	90	▲ 8	▲11.6	住民基本台帳世帯数、第１次産業就業者数、総面積、可住地面積、標準財政規模
	総務・企画	77	総務				
	税務	18	税務	27	▲ 9	▲35.7	住民基本台帳世帯数、可住地面積、事業所数、軽自動車数、固定資産税納税義務者数（土地）
	民生	137	民生	139	▲ 2	▲4.9	住民基本台帳世帯数、65歳以上の人口、社旗福祉施設等数（公営）保育所数（公営）保育所在所児数（公営）
	衛生	39	衛生	25	14	51.9	65歳以上の人口、総面積、衛生費、ごみ収集量、直営ごみ収集量
	労働	1	経済	19	1	▲4.8	総面積、小売店数、農業費、農地費
	農林水産	11					
	商工	8					
	土木	40	建設	41	▲ 1	0.0	昼間人口、市町村道実延長、都市計画費、都市公園数、公営住宅戸数
計		336		341	▲ 5	▲4.2	

注）「地方公共団体における適正な定員管理の推進について（平成３１年３月地方公共団体定員管理研究会報告書）」を参考に、一般市の定員モデル式を用いて試算しました。

試算値（総務・議会）＝一定値＋aX_1（住民基本台帳世帯数）＋bX_2（第1次産業就業者数）
＋cX_3（総面積）＋dX_4（可住地面積）＋eX_5（標準財政規模）
※ a～e：それぞれの統計数値に乗じる係数